平成27年度施策評価シート

基本施策	誰もがやすらぐことのできる場を創出する		
総合計画での位置付け	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
	分野	4	住宅・公園
主要な計画	・耐震改修促進計画 ・みどりの基本計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・市内には、国立公園をはじめとした多くの自然や緑地が残されているとともに、市内5箇所に整備した自然環境を活かした合併記念公園は、市民生活に潤いとやすらぎを与えている。</p> <p>・本施策は、豊かで美しい自然のなかで、飛騨地域の中核都市として利便性の高い都市的サービスを受けながら安全で快適な暮らしを実感できる「すみよさ」のあるまちづくりをすすめるため、誰もがやすらぐことのできる場を創出することを目的としている。</p>		

1 概要

施策	施策の内容	これまでの取り組み	担当局
1 特色ある公園づくり	ア 市民の交流の場とした合併記念公園などの利用促進	・広報たかやま、市ホームページなどにより合併記念公園のPRを行い利用促進を図った。 ・市や各種団体が主催するイベント等に利用された。	基盤整備
	イ 地域の資源や特性を活かした公園の整備	・まちの博物館と一体となった「まちの博物館公園」や国府支所跡地に「こくふふれあい公園」を整備した。 ・既存公園についても、地元産木材等を利用し補修を行った。	基盤整備
	ウ 中心市街地において誰もが気軽に利用でき、まちの魅力を感じられる小公園の整備	・市街地に人が集えるまちかどスポット「憩いの場」を整備した。	基盤整備
	エ 安心して遊べる公園づくり	・児童の健全育成や健康増進のため、児童遊園の適正な管理に努めた。 ・地域における児童の健全な遊び場の確保のため、町内会等が管理する公園の賠償責任保険に加入した。	福祉部
	オ 町内会などが管理する児童遊園地の整備に対する助成	・地域における児童の健全な遊び場の確保のため、町内会等が管理する公園の整備に対し助成した。	福祉部
	カ 親しみ愛される公園づくりの推進	・一部の公園については、周辺の住民の方に清掃や植栽を行ってもらい、親しみやすい公園づくりを進めた。	基盤整備

2 指標の推移

指標名	単位	関連施策	好ましい方向	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標
公園利用満足度	%	1-ア	↑	-	89	91	94	95	94	100
市民一人当たりの公園面積	m ²	1-イ	→	13	13	13	13	13	13	13
町内管理公園賠償責任保険加入数	件	1-エ	↑	143	147	147	143	149	150	150
町内管理公園整備助成件数	箇所	1-オ	↑	12	6	2	9	16	20	10

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために改善等を行う優先度	
H21	点数	53.4	(平均) (54.6)	63.7	(平均) (79.7)	Ⅲ	やや低い
	順位	42施策中 27 番目		42施策中 42 番目			
H25	点数	52.6	(平均) (56.9)	70.0	(平均) (81.8)	Ⅲ	やや低い
	順位	43施策中 33 番目		43施策中 43 番目			
H27 (今回)	点数	51.7	(平均) (56.0)	70.5	(平均) (81.2)	Ⅲ	やや低い
	順位	43施策中 33 番目		43施策中 41 番目			

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		福祉部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
1	特色ある公園づくり	・町内会においては、少子高齢化や町内会加入者の減少による担い手不足により、児童遊園の維持管理が困難になっているところもある。	・地域におけるふれあいの場としての児童遊園となるよう、地域の自主性を尊重した財政支援を行う。

担当部局		基盤整備部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
1	特色ある公園づくり	・合併記念公園の利用促進を図るとともに地域の資源や特性を活かした公園を整備した。	・利用環境の向上や多機能化の推進などにより利用しやすい特色ある公園づくりを進める。

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用頻度が低い公園がある。 ・町内会において公園を管理する人が不足してきている。 ・多額の維持管理費用を要する公園がある。 <p>といったことが挙げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度および今後の重要度とともに低くなっているが、緑の基本計画に基づき、生活に潤いとやすらぎを与えてくれる貴重な場である公園や緑地等の適正な維持管理と活用に取り組んでいく必要がある。</p> <p>特に、利用頻度が低い公園については、譲渡や廃止を含めたあり方について再検討するとともに、管理する人が不足する公園や維持管理費が多額な公園については、管理手法や設備等について再検討する必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・高山市は全国的にも誇れる豊かな自然に恵まれており、この豊かな自然を活用することが大切である。しかし現実には高い入山料やガイド料が必要であったり、自然保護の名目やクマなどの被害防止のために自由に入山したり河川で遊ぶことが出来ない現状がある。人も熊も安全に生きられる方法を模索し共生する必要がある。 ・合併記念公園やまちの博物館公園、国府ふれあい公園等の利用が不十分である。一般市民に対するPRや市民が参加できるイベントの開催、交通アクセスの利便さなどで実際に市民の利用を促進することが必要である。 ・まちかどスポットの利用については、高齢者や旅行者が休息している姿をよく見かけるなど、一定の利用がなされている。

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成27年度事業評価における担当課評価)

関連施策	事業コード	事業名	評価	事業費決算額(千円)	
			点数	H25年度	H26年度
1-イ、エ	74605	公園整備事業費	80	32,979	26,272
1-オ	32112	児童遊園地管理費	60	5,068	4,890
1-オ	32142	児童遊園地整備費補助金	50	3,676	5,351
			平均点	H25年度	H26年度
			63.33	41,723	36,513